

No. 9月-16

復 命 書

18年9月11日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18年 9月 9日(土) ~ 10日(日)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

鳥取県倉吉市

高齢者社会をよくする女性の会参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「地域活動を活かす」

「改正介護保険を検証する」

「政策参画の道」

等

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

1511

高齢社会をよくする女性の会第25回全国大会・鳥取

『人生100年 すべての世代に居場所と出番』

記念講演は、女優小山明子さん。世界の大島渚監督の奥様。『二人三脚で乗り越えた介護の日々～今日も2人で～』は、監督の介護の話。生々しい真実。本音に心打たれました。介護うつになったこと。女優である意識との葛藤。病に冒された監督の気持ちを汲んで対応するのに、どんなにか勇気が必要だったことか。失ったものを惜しむのではなく、過去を手放し、今ここを楽しんで生きている。過去の名声にもこだわらない。動かなくなった半身の回復を願うのではなく、残された半身を鍛えていく。こんな考え方。実践者の生の声。経験は何にも変えがたい重さがある。でも、紫色の艶やかな着物姿の舞台の小山さんは、やはり女優でした。

1512

鼎談：鳥取県知事・片山義博

厚生労働省大臣官房審議官・御園慎一郎

N p o 法人高齢社会をよくする女性の会

樋口恵子

19世紀は個人の人権確立、20世紀は社会保障と社会連帯の発展があったとすれば、21世紀は、それらを具現化する地域の再発見、地域を中心としたシステムの社会的発明の世紀なのではないか。いま、話題の格差社会にもこだわりながら、全ての世代に居場所と出番がある地域をどう創るか、協働、公共、男女共同参画をキーワードにそれぞれの立場で、熱い話がなされた。地域の自立を強調する知事。鳥取自立塾の開催、草の根自治支援など、個々の状況に応じた自立を提唱。老健局審議官として、高齢者政策を担当。元気な高齢者の支援を訴える。介護保険の改正から説明。樋口代表は、朝日社会福祉賞にふれ、会の実績を説明。介護の社会化と女性の自立を目指して先駆的に全国

ネットワークを築き、支えあう高齢社会の実現に向け4半世紀取り組んできたことが認められた。と。

自助、公助、共助それぞれが上手くかみ合い、これからは、より身近の所での協働が必要だと認識した。

今直面する課題、新たに見えてきた課題、最新の分析を加え、情報発信し、社会に提言し続けるのが、この会の特徴だ。来年26回の全国大会は、静岡での開催と決定。今から準備にかかっている。

翌日は、7つの分科会が開催された。①地域活動を活かす・我らがお国自慢、西、東②改正介護保険を検証する③政治参画の道・女性議員大集合④介護で働く人々集まれ・介護職員に期待するもの⑤おいて安心の地域医療・保険、医療、福祉の連携⑥ご近所型福祉のすすめ⑦健康寿命をのばそう・ハッピーエイジングわたしは、第三分科会に参加、発言した。鳥取県が主催している『政治セミナー』議員になってもらうためのセミナーとのことで、5回の講座修了でかなりの議員が誕生していると言う。実践的内容に驚いた。

ちまたでは、ジェンダーフリーバッシングがかなりあるが、めげずにがんばらなければ。女が女の足を引っ張るようなことがあってはならない。合併で女性議員が激減している。男性も減っているので、比率はそう変わらないけれども、町議などは、完全に出られない状態になっている。思想信条は個人的なものだけれど、良くするという共通項で、いろんな人と手を繋ぐ、お金をかけない選挙。質問で、女性外来のことや、乳がんの支援など女性ならではのテーマでみんなに浸透させて輪を広げていく。やっぱり女性が必要だ、と思わせるようにする。平等、開発、平和をテーマに市民の代表になることが必要だ。まだまだ足りない女性議員。私は、まず、立候補する人を増やすことが大事だと提案。政策立案能力を高めて、女性だからではなく、自分の経験してきた 1 番気になることをテーマにしていくことが大事だ。が、女性なので、やはり、子育て支援の中味や、教育環境の充実が気になる。だから質問のテーマにしていく。街づくりや人づくりもかか

わっていききたい。予算ももっと突っ込んで議論できるようになりたいと思っている。いずれにしても、自民党、社民党、民主党、無所属の女性国会議員、地方議員を交えての議論は、とても幅広く、興味あるものだった。